

## 令和二年度

## 後期選抜 学力検査

## 国語

## 問題用紙

### (注意事項)

- 一 放送で指示があるまでは、開いてはいけません。
- 二 答えは、全て解答用紙に書きなさい。
- 三 検査問題は、大問七題で、1ページから13ページまで印刷されています。検査開始後に、印刷のはっきりしないところや、ページが抜けているところがあれば、手を挙げなさい。
- 四 解答用紙だけ提出し、問題用紙は持ち帰りなさい。

### 解答上の注意

解答する際に字数制限がある場合には、「句読点や「」などの符号も字数に数えること。

### 聞き取り検査受検上の注意

- (1) 最初に聞き取り検査を行います。
- (2) 聞き取り検査は放送で行います。問いても放送します。放送は全て一回だけです。
- (3) 放送終了までは、3ページ以降を開いてはいけません。
- (4) 放送中に、1ページと2ページにメモをとってもかまいません。

## 国語聞き取り検査放送用CD台本

(ナナイム)

これから、国語の学力検査を行います。まず、問題用紙の1ページと2ページがあることを確認しますので、放送の指示に従いなさい。

(1) 砂空(目) では、問題用紙の1ページと2ページを開きなさい。

(1) 砂空(目)

確認が終わったら、問題用紙を閉じなさい。1ページと2ページがない人は手を挙げなさい。

(1) 砂空(目)

次に、解答用紙を渡にし、受検番時、氏名を書きなさい。

(2) 砂空(目)

最初に聞き取り検査です。これは、放送を聞いて間違いを尋ねる検査です。問題用紙の1ページと2ページを開きなさい。

(1) 砂空(目)

—「これから、望中<sup>ぞうちゆう</sup>中学校の総合的な学習の時間に、前田さんと小川さんの班が「食の大切さ」について、学習の計画を立てている場面と、それに関連した問いを四問放送します。1ページの資料①、資料②を見ながら放送を聞き、それぞれの問いに答えなさい。」

(1) 砂空(目)

なお、やりとりの途中、(合同音△)という台詞のあと、問いを放送します。また、(合同音目)という台詞のあと、場面の続きを放送します。

1ページと2ページにメモをとってもかまいません。では、始めます。

前田 授業でお米を育てたことを覚えてる？ 収穫まで待つと手間がかかって、そんなに大変だなんて思ってたもなかった。

小川 今はお店に行けば何でも揃っているから、食の大切さが見えにくくなっているのかも知れないね。

前田 たぐさのおおみややお米袋が並んでいるものね。期間限定で売られてしまっているのは問題よね。

小川 そんなに、いつでも食べられるという安心感があるから、つい朝ご飯を抜いたり、生活が不規則になったりする人もいるみたによね。それも問題だな。前田 ちょっと待つて、私たちのテーマは食の大切さなのだから……

(合同音△)

問いの(1) このあと、前田さんほどのようなことを指摘したと考えられますか。最も適当なものを、選択肢A～Eのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(1) 砂空(目)

(1) 合同音(目)

小川 それならさつき前田さんが言った問題から食の大切さを見直そうよ。以前、売れ残った菓子を捨てているニュースが話題になったよね。

前田 たぐさん捨てられていて驚いたね。先生、日本ではおくら以外の量の食品が捨てられているの、どうですか。

先生 資料①を見てみてください。日本では六百四十六万トンの食品ロスがありました。これは国民一人ずつが、毎日お茶碗一杯分の量を捨てているのと同じくらいなんです。世界の食糧援助量と比べても、その多さがわかりますね。次に資料②を見てください。家庭における食品ロスの内訳です。捨てられる理由と割合がわかりますね。

小川 もっとたいないな。みんなが毎日お茶碗一杯分の量を捨てずにきちんと食べれば食品ロスはなくなるのに。

前田 本当にそうかな。資料をもっとよく確認してみようよ。

(合同音△)

(1) 合同音(目)

問いの(2) 前田さんがこのように発言した理由として、最も適当なものを、選択肢A～Eのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(1) 砂空(目)

(1) 合同音(目)

小川 私たちに何かできることはないですか。

先生 そうですね。買ひ物の箱に冷凍庫の中をチェックすることや食べきれぬ量しか作らないことを消費啓発はすすめています。

前田 日本以外の国はどうですか。

先生 アメリカでは食べきれぬ量を「料理を持ち帰る容器」が飲食店が準備しています。フランスでは大きな食料品店が食品廃棄に罰金を払う法律があります。

小川 先生のおかげで物事を幅広い視点でとらえることができました。

(合同音△)

(1) 合同音(目)

問いの(3) 小川さんのいう「幅広い視点」とはどのようなことですか。最も適当なものを、選択肢A～Eのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(1) 砂空(目)

(1) 合同音(目)

小川 前田さん、僕たちは食品ロスの問題に焦点をあてていこうよ。

前田 資料①と②で垂れ合わせが多い項目に注目して、効果的なアプローチをしていきたいね。

小川 学校の栄養士さんに質問させてもらって、家の人にも興味を持ってもらえるような提案をしていくようにしようよ。

(合同音△)

問いの(4) このあと、二人が栄養士さんにする質問として、最も適当なものを、選択肢A～Eのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(1) 砂空(目)

放送は以上です。3ページ以降も解答しなさい。

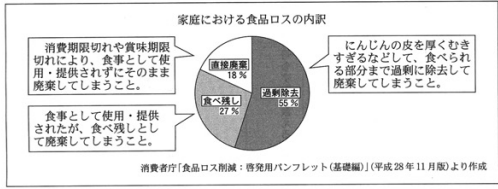
※注意 各ページの全ての問題について、解答する際に  
 字数制限がある場合には、「句読点や」「」などの  
 符号も字数に数えること。

— これから、望<sup>のぞ</sup>中学校の総合的な学習の時間に、前田さんと小川さん  
 の班が「食の大切さ」について、学習の計画を立てている場合と、それに  
 関連した問いを四問放送します。1ページの(資料1)、(資料2)を見な  
 がら放送を聞き、それぞれの問いに答えなさい。

(放送が流れます。)



(資料1)



(資料2)

(1) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア お弁当やお総菜の種類について調べるべきだということ。
- イ 食と健康の関係性について調べる必要があるということ。
- ウ 作物を育てる大変さの方が主題にふさわしいということ。
- エ 生活習慣という話題はテーマから外れているということ。

(2) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 日本の国民がそれぞれ茶碗一杯分の食品を捨てずに食べたことと、食糧援助の二倍近くの量を消費してしまうから。
- イ 茶碗一杯分のご飯をきちんと食べることで食べ残しによる廃棄は無くなるが、食品ロスの他の要因には影響しないから。
- ウ 茶碗の例は日本の食品ロス全体の量を換算したものであり、実際に茶碗一杯分を食べたとしても問題は解決しないから。
- エ 茶碗一杯分の食品廃棄は食品ロス全体の量の三割程度に過ぎないが、世界の食糧問題を考えると無視できない量だから。

(3) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 食品ロスの削減は消費者・販売者双方で取り組めるということ。
- イ 食品ロスの増加は食糧援助量と密接な関係があったということ。
- ウ 食品ロスは法律などで規制する以外に改善策がないということ。
- エ 食品ロスは今では食糧不足以上に深刻な問題であるということ。

(4) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 冷蔵庫の中の食材をチェックすることがどのように役に立つのですか。
- イ 食材を無駄なく用いるアイディア料理はどのようなものがありますか。
- ウ 家庭では食べ残しを減らすためにどのような献立の工夫ができますか。
- エ 世界の国々では食品ロスをどのように削減しているか知っていますか。

聞き取り検査終了後、3ページ以降も解答しなさい。

二 次の(1)～(4)の——の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- (1) 穏やかな日和。
- (2) 必要以上の作業を強いる。
- (3) 足がすくむような戦慄をおぼえた。
- (4) 緩急自在な演奏に魅せられる。

三 次の(1)～(5)の——のカタカナの部分に漢字に直して、楷書で書きなさい。

- (1) 雑草が才い茂る。
- (2) 豊かにこえた大地に種をまく。
- (3) 稲などのこクモツを刈り取る。
- (4) 銀行のこウザから預金を引き出す。
- (5) 紅茶にかクザトウを一つ入れる。

#### 四 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

中学三年生の「私」(雪子)と薫は幼なじみの親友で、ピアノの好きな雪子は高校の音楽科への進学を目指し、数学が得意な薫はプログラミングに興味を持っている。夏休みに二人で人気のバンド「Over」のライブに出かけた帰り道、人気のポップコーン店の前の長い行列を見た薫は、レシビ化してコンビニで売った方がもうかるのに、とひとりごちのようにつぶやく。そして二人は駅に着いた。

電車を待つホームに隣同士並ぶと、薫ちゃんAは、私の首からぶら下がっているタオルを見ながら、また、ひとりごちのように言った。

「このタオルも、会場限定のやつ買おうと思ったら、めちゃくちゃ並ぶんだよね」

薫ちゃんは、いつのまにか、首にかけていた自分のタオルをカバンの中に片付けている。

「私、たまに思うの」

電車を一本、やり過す。特急ではなく、快速に乗らなくてはならない。

「会場限定タオルとか、光流ちゃん(注1)じやないと弾けない曲とか、超並ばないと買えないポップコーンとか、資料室でしか借りられない問題集とか、音楽室に行かないと練習できないピアノとか」

特急電車から振り落とされた風に、髪の毛を乱される。

「渡邊くん(注2)にしか消せない黒板とか」

薫ちゃんの声だけが、風に吹き飛ばされずに、その場に残る。

「その場所じゃなきゃ手に入らないとか、その人じゃなきゃできないとか、そういうのって意味あるのかな」

特急電車が見えなくなる。

「どこでも、誰でもできるようになったほうが、便利でいいのに」

本当に、独り言なのかもしれない。私の反応なんて、求めていないのかもしれない。だけど私は、自然に口を開いていた。

「違うと思う」

風に散らされた髪の毛を、耳にかける。視界から邪魔なものが消えた。

「特に今日みたいなライブって、その日その場所じゃなきゃ、その人の生演奏だからこそっていう感動があると思う。今日のセットリストだって、家でひとりで曲聴いてもこんな気持ちにならなかっただろうし」

——私には、私にしか弾けない、私にしか作れない曲が必ずあります。

光流ちゃんの言葉が、突然、私の頭の中でだけ蘇よみがえった。私は、どんな小さくなっていく自分の声を、街の雑音のような距離感で捉える。

「やっぱり、生演奏だからこそ、ライブだからこそ楽しさってあるよ」

「気づいてなかったのに？」

薫ちゃんが、私の言葉を遮るように言う。

「一曲目、メインステージにいるメンバーが3D映像だって気づいてなかったのに？」

新しいパンにバターを塗るように、新しいノートの一ページ目に丁寧に文字を書くように、言う。

一曲目、3D映像で現れた『Over』のメンバーたち。私は見抜けなかった。

中盤の定番曲、モニター内のステージ上に現れた、会場の客たち。みんな、それだけで大喜びだった。

今日のライブは、ツアーの千秋楽だった。最後に発表された『Over××』の××の部分。<sup>(注4)</sup>

Human<sup>(注5)</sup>

Over Human が、今回のツアーのテーマだった。

「私ね」

薫ちゃんの声と同時に、電車が私の五感に入り込んできた。

「今日のいろんな演出見て、Overは、メンバーがそこにいなくても、お客さんがそこにいなくても、ライブっていうものが実現できる未来を指しているのかなって思った」

電車が止まった。快速だ。たくさんの人が降りてくる。

「それってすごいことだなんて。だって、遠くへ行けなとか、お金がないとか関係なく、いつでもどこでもOverのライブが楽しめるってことだもんだ」

薫ちゃんが、電車へ乗りこんでいく。<sup>C</sup>

一足先に、未来へ進むように。

電車のベルが鳴る。足が動かない。<sup>D</sup>

「ユッコ？」

光の中から、薫ちゃんがこちらを見ている。

この未来に、乗り遅れてもいいかもしれない——そう思った途端、薫

ちゃんが私の手を握った。

「何してんの、電車出ちやうところだったじゃん」

いきなり動き止めないでよ、と笑いながら、薫ちゃんが私の手首からてのひらを離す。私は「めんど」と呟きながら、突き進んでいく空間の中、揺らく足に力を込める。

電車は混んでいた。はじめは全然座れなかったけれど、一度乗り換え駅を経ると、座席が徐々に空いてきた。地元の駅まであと四駅となったところで、やっと、二人並んで座ることができた。

窓の外を、景色が流れていく。

電車は、私たちを、中学三年生が自分の力だけでは到底辿り着けなかったような場所からよく見知った町まで帰してくれる。車を運転することができる大人じやないと行けなかったような場所まで、私たち子どもを運んでくれる。

(朝井リヨウ「ままならないから私とあなた」による。)

(注1) 光流ちゃん||バンド『Over』のピアノ担当で作曲家でもある。雪子の憧れの存在。

(注2) 渡邊くん||雪子たちと小学校で同じクラスだった背の高い男子。

(注3) セットリスト||コンサートなどで演奏された曲順。

(注4) 千秋楽||演劇・相撲などの興行の最終日。

(注5) 『Over××』||バンド『Over』のツアーのメインタイトル。「××」の部分はツアーごとに異なり、最終日に発表される。

(注6) Human||人間らしいさま。人間味のあるさま。人間的。

(1) 文章中に、薫ちゃんは、私の首からぶら下がっている……言ったとあるが、この時の薫の心情として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 自分は早々にタオルをしまったが、まだタオルを掛けたままの雪子に対して、特定の物にこだわりを持つことに疑問を抱いている。

イ 自分は早々にタオルをしまい、いつまでも首に掛けたままの雪子に対して、大切なグッズを無雑作に扱うことに疑問を抱いている。

ウ 自分は早々にタオルをしまい、雪子がタオルを外さず街の中でも「Prada」のファンであることを示していることに疑問を抱いている。

エ 自分は早々にタオルをしまったが、雪子がライブが終わってもタオルを外さず身だしなみに無頓着であることに疑問を抱いている。

(2) 文章中に、風に散らされた髪の毛を、耳にかける。とあるが、この動作を境に、雪子にはどのような心情の変化がみられるか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 薫の理路整然とした口調に心を乱されたものの、何とか自分の考えを言葉に表すことで、少しずつ心の平静を取り戻していった。

イ 薫のつぶやきが雪子の反応など求めない独り言であるにもかかわらず、どうしても薫に自分の考えを理解してもらいたくなった。

ウ 薫の言葉に触発され、自分の抱いていた違和感が言葉となつて口をついて出たことにより、はつきりと意識されるものになった。

エ 薫のライブに対する感想が冷淡であることに納得がいかず、自分の感激を否定されてはたまらないという警戒心が生まれてきた。

(3) 文章中に、電車へ乗りこんでいく。薫を見た雪子の足が動かないという場面があるが、その理由を二人の様子を対比させてまとめた次の文の I、II に入る言葉を、文章中の言葉を使って書きなさい。ただし、どちらも「未来」という言葉を使い、I は十五字以内で書き、II は二十字以内で書くこと。

I

薫に対し、雪子自身は

II

と考えていたから。

(4) 文章中から、雪子が気づかなかつた事実を重ねて指摘する薫の話方が、比喩を使って表現されている一文を抜き出して、はじめの五字を書きなさい。



(5) 文章中の <sup>E</sup> 突き進んでいく空間の中、揺らく足に力を込める につ

いて、雪子の心の揺らぎに注目してまとめたとき、次の文章の

〔 I 〕、〔 II 〕に入る言葉として最も適当なものを、あとの

ア～エのうちからそれぞれ一つずつ選び、その符号を書きなさい。

その日、その場所であること、その人でなければできないこと

に 〔 I 〕 と思いつつ、ライブの一曲目にメインステージに立

つメンバーが3D映像だと気づかなかった雪子は、 〔 II 〕。

いやおうなしに運ばれていく電車の中で、不安定さを抱えた自分  
を何とか保とうとしている様子を表している。

〔 I 〕 の選択肢

ア かけがえのない価値がある

イ はかなく消える美学がある

ウ 仲間と味わう一体感がある

エ 誰もが憧れる獨創性がある

〔 II 〕 の選択肢

ア 薫と自分のどちらの正しさも信じていない

イ 薫に対して芽生えた不信任を拭い去れない

ウ 薫の思い描く世界に対し異を唱えきれない

エ 薫に自分の間違いを認めて素直に謝れない

## 五

次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

研究者や評論者は作品を読んで、自分の論文なり批評なりを書きますが、翻訳者も原文を読みこんで解釈をします。翻訳とは一種の批評的なのです。しかし翻訳者が書くのは、その作品の論評ではありません。作品そのものを書くのです。他者が書いた文章を読んでインプットするだけでなく、それを今度は自分の言葉でアウトプットする。原文の一語一句をあなたの読解と日本語を通して、まるごと書き直していくわけです。

だから翻訳とは、体を張った読書だと言えるでしょう。翻訳とはその作品の当事者、実践者になりながら読むこと。「批評が作品へのかざりない接近だとすれば、翻訳はその作品を体験することである」と言ったのは、フランスの有名な翻訳学者アントワーヌ・ベルマンでした。この「他者の言葉を生きる」スリルは精読するだけでは味わえないものです。声優さんの仕事の楽しさと少し似ているかもしれません。

さらに言えば、作品のテキスト(書かれている文章とその内容)を、翻訳を通して「体感」することで、自分にとってよくわかる部分、わからない部分、より明確に見えるような効用もあると思います。原文や訳文を読んでいるとき、「なんだか妙な表現でひっかかる」とかさつきとつじつまが合わないなどと思いがちでも、読み進めることがありませんか? 翻訳では、そうした箇所も飛ばすわけにはいかないので、そのわからなさやまじまじと見つめることになります。さらに、その英文を日本語という別な言語に移す行為を通すと、その作家の文体の癖が浮き彫りになったり、かくれた意図(皮肉、ジョーク、あるいは気遣い……)が

現れてきたり、作中人物の意外な性格が露わになったりするように。わたしも『丘』や『風と共に去りぬ』『灯台』へ『アッシュヤー家の崩壊』を訳して「体を張って読んでみて、初めて気づいたことがたくさんあり」ました。

たとえば言えば、バレエダンサーの動きやそれが表現するものをつぶさに見て批評するのが舞踏評論家なら、バレエダンサーの動きやその奥にあるものをつぶさに見て読み解きながら、なおかつ一緒に踊るのが翻訳者です。ある優雅な姿勢をとるには、体のどこの筋がびんと引つ張られるか、関節をどんなふうに曲げているか、腰のどこのあたりに負荷がかかっているか、踊り手と同じではないにせよ、擬似体験をすることになります。水泳にたとえれば、スイマーの泳ぎの解説をしながら一緒に泳ぐようなものです。そんなことは「物理的に両立できないと思われるかもしれませんが、そのとおりです。両立できない無茶なことをやるのが、翻訳だとも言えます。」

(鴻巣友季子『翻訳ってなんだろう? あの名作を訳してみる』による。)

(注1) インプット＝知識や情報などを取り入れること。

(注2) アウトプット＝内にたくわえたものを外に出すこと。

(注3) 精読＝細かな点まで注意深く読むこと。

(注4) 文体＝その作者にみられる特有な文章表現上の特徴。

(注5) 『風が丘』『風と共に去りぬ』『灯台』へ『アッシュヤー家の崩壊』いずれも十九世紀から二十世紀にかけてイギリスやアメリカで発表された小説の題名。

(1) 文章中の①②③④の四つの語のうち、活用しない自立語である副詞を一つ指摘し、その符号を書きなさい。

(2) 文章中の <sup>A</sup> 原文の「一語一句をあなたの読解と日本語を通して、まるごと書き直していくわけです」を説明したのとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 原文の内容が日本人に通じない場合もあるので、翻訳者が自分の言葉で内容を書き換えて翻訳すること。

イ 原文を日本語に移しかえるだけでなく、翻訳者が読みとった内容を反映させた文章を書こうとすること。

ウ 翻訳者が原文を読んで理解し感じとったことを書き加え、全く別の新しい作品に生まれ変わらせること。

エ 原文を詳しく調べ、間違いを直し欠点を補いながら翻訳することによって作品の魅力を増大させること。

(3) 文章中に <sup>B</sup> わからなさをまじまじと見つめる とあるが、その内容を具体的に説明したのとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 語句の意味をそのまま訳語に置き換えただけでは意味が通らない箇所について検討すること。

イ 文章の意味が正しく伝わらない原因となつて作者の文体の癖を見抜いて対策を練ること。

ウ 他者が書いた文章を自分が異国の言葉で書き直してしまうことのスリルを存分に味わうこと。

エ どんな知識や情報を集めれば一語一句まで正確に訳すことができるのか見通しを立てること。

(4) 文章中に、<sup>C</sup>体を張って読んでみてとあるが、その効果について述

べた次の説明文を完成させなさい。ただし、  
は文章中からそれぞれ六字で抜き出して書き、  
ア、エのうちから最も適当なものを一つ選び、その符号を書くこと。

I、II、III

「体を張って読む」とは、ただ読むのではなく、作品の文章や内容を  
を  
I ことである。翻訳者は別な言語に移す行為を通して  
II という擬似体験をすることになるので、文章の奥にあ  
る  
III や工夫などに気づくことができるのである。

「II」の選択肢

- ア 泳者の体の負荷を感じる
- イ 評論家の視点で解説する
- ウ 踊り手の動きを实践する
- エ 作家の立場になつて書く

(5) 文章中に、<sup>D</sup>両立できない無茶なことをやるのが、翻訳たとも言えま

す<sup>1</sup>とあるが、どういうことか。このことを具体的に述べた次の説明  
文の [ ] に入る言葉を、文章中の語句を使って書きなさい。た  
だし、「作品」という言葉を二回使い、「……役目と……役目」の形で、  
十五字以上、二十五字以内で書くこと。

バレエや水泳において、ひとりの人間が見る者(第三者)でありながら踊り手や泳者(当事者)でもあるということは物理的に成り立たない。しかし翻訳は [ ] の二役を同時に成し遂げる行為である。

## 六 次の文章を読み、あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

昔、京都より、六歳になりける女子の人に勝れて賢を選び給ひ、  
〔六歳になつた女子で、とりわけ賢い子を〕

やむことなき御方の御側御相手として、吾嬪の国の大江戸に下りてあ  
〔身分の高いお方の身近に仕える召使い〕  
〔女子は東の国の江戸にくだつてい

りけるに、恋といふ題にて歌詠めと仰せ言ありければ、  
〔主人からお言葉があつたので〕  
たが。

〔A〕 見し事のなければそれと知らねども忘れぬをや恋といふらむ  
〔恋というのでしようか〕

と詠みける。

また、時鳥といふ題にて歌詠めと仰せ言ありければ、  
〔注1〕

〔B〕 子はあづま父は都のくもる路に待つほととぎす鳴くほととぎす  
〔注2〕

と詠みて奉りければ、都の父を思ふ真心の歌をめでさせ給ひ、その  
〔詠んでさしあげたこと〕

六歳の女子を都の父のもとにかへし給ふとぞ。

〔奇談雑史』による。〕

〔注1〕 時鳥Ⅱ鳥の一種。鋭い声で鳴くことで知られる。

〔注2〕 くもる路Ⅱ空や雲の中の道。鳥や月、天女などが通るとされた。

(1) 文章中のくもる路を現代仮名づかいに改め、全てひらがなで書きなさい。

(2) 〔A〕の和歌がどのようにして詠まれたかを説明したものと最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 見たことがないわけではないと曖昧な表現にして詠んだ。
- イ 直接会ったこともない人なので想像を頼りにして詠んだ。
- ウ 主人に遠慮して何のことも知らないふりをして詠んだ。
- エ 自分自身がまだ体験していないこととして率直に詠んだ。

(3) 中学生の富田さんが授業でこの場面を読み、友人の梅原さんと意見

交換をしている次の会話文を完成させなさい。ただし、

Ⅰは七字、

Ⅱはそれぞれ文章中から抜き出して、

Ⅲは八字で書くこと。また、Ⅳは、下のアイエのうちから最も適当なものを一つ選び、その符号を書きなさい。

富田さん この女子の賢さはⅡの和歌に表れているなと思

ました。まだ六歳なのに、たった三十一文字の和歌で人の心を動かし、望みをかなえることができたのですから。

梅原さん ⅠとⅡの和歌には、共通点があるのではないでしょう。Ⅲの「忘れぬ」という思いはⅣの

「Ⅰ」という痛切な表現と相通するものがあると思います。

富田さん 「忘れぬ」とはどういう心情だったのか気になります。

梅原さん Ⅰの和歌は「恋」という題であるけれども、まだ六歳だからこそ、似通った感情であるⅡに

Ⅲ 詠んだのが「忘れぬ」で伝えたかったことだったのではないでしょう。

富田さん なるほど、Ⅱの和歌を手がかりにⅠの和歌の真意を探してみると、より深く味わえそうですね。

ア おりませで  
ウ あてつけて  
エ すりかえて  
イ なぞらえて

## 七

外国人観光客が年々増加し、二〇一八年には三二〇〇万人以上が日本を訪れました。来日した観光客の中には、ごみ箱の設置数が少ないという感想をもつ人もいます。アメリカのニューヨーク市のような大都市では、一区画ごとに大きなごみ箱が設置されていることから、日本でも街の中にごみ箱を多く設置しようという次のような意見があります。このことについて、あとの〈条件〉にしたがい、〈注意事項〉を守って、あなたの考えを書きなさい。

〔日本でも街の中にごみ箱を多く設置しようという意見の例〕

ごみ箱は街の中に多く設置してある方が便利でよい。出掛けた先で、ごみをずっと持ち歩くのは楽なことではないので、人目のつかない場所にごみが捨てられるおそれがある。しかし、ごみ箱が多く設置してあれば所定の場所に捨てることができ、結果としてきれいな景観の維持につながる。

### 〈条件〉

- ① 一段落構成とし、七行以内で書くこと。
- ② 「ごみ箱をあまり設置しない方がよい」という立場に立った上で、これまでの経験をふまえながら日本でも街の中にごみ箱を多く設置しようという意見の例に反対する意見となるように書くこと。

### 〈注意事項〉

- ① 氏名や題名は書かないこと。
- ② 原稿用紙の適切な使い方にしたがって書くこと。  
ただし、「—や—」などの記号を用いた訂正はしないこと。

合 計	七	六			五		四				三	二	一	問題 番号	正 解	配点及び注意			
		(3)	(2)	(1)	(5)	(4)	(1)	(5)	(4)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)					
100	10	(解答例) 街の中にあまりごみ箱を設置しない方がよい。安易に捨てられる場所があると余計にゴミが増え、処理をする費用や手間が増えることとなるからだ。駅の構内は、ごみ箱の数は少なくても、ホームがごみであふれていることとはない。自分の出したごみは責任を持って持ち帰るべきだと思う。	(3) III I エ 鳴くほととぎす II 都の父を思ふ真心	(2) エ くもい	(1) くもい	(5) 作品を批評する役目と作品そのものを書く役目	(4) I 「体感」する II エ III かくれた着図	(1) ③ ② イ ③ ア	I ア II ウ	(5) ウ	(4) 新しいパン	(3) II I 一足先に未来へ進んでいくような 未来に乗り遅れてもいいかもしれない	(1) ア (2) ウ	(1) 生 (2) 肥 (3) 穀物 (4) 口座 (5) 角砂糖	(1) ひより (2) し (3) せんりつ (4) かんきゅうござい	(1) エ (2) ウ (3) ア (4) イ	計		
																		3	各3
						同題旨ならば正解とする。部分点を与えてもよい。		(1)は数字だけで○がなくても点を与える。				同題旨ならば正解とする。部分点を与えてもよい。							
		以下の観点を参考に、採点基準の細部については各学校で定める。 ○内容 ○字数制限・段落構成 ○表現・表記 ※全ての条件を満たしていない場合でも、部分点を与えてもよい。																	
		14				23						23		10	8	12			